

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和7年度第4回相模原市立図書館協議会		
事務局 (担当課)		相模原市立図書館 電話：042-754-3604 (直通)		
開催日時		令和8年1月27日(火) 午後6時～8時		
開催場所		相模原市立図書館 2階 視聴覚室		
出席者	委員	7人(別紙のとおり)		
	その他	なし		
	事務局	9人(図書館長、橋本図書館長、相模大野図書館長他6人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 報告事項 2 議題 (1) 成果指標に係る重点的な目標について (2) 司書職人材育成方針(案)について 3 その他		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 報告事項

事務局から次の内容について報告した

- (1) 金子委員が任期満了に伴い退任。後任の委員の決定は今回の協議会より後になる。
- (2) 10月1日付の人事異動で込山正義館長が相模大野図書館に着任。

2 議題

(1) 成果指標に係る重点的な目標について

事務局から資料に基づき説明し、意見聴取を行った。

(大谷会長) 8ページ目の指標5の指標の説明が誤りではないでしょうか。7ページ目と同じ説明になっています。第二次基本計画ではレファレンス受付件数は「市民や地域の課題解決にどの程度貢献しているか測る指標」となっています。本件は図書館評価の中で、図書館職員の努力は評価しているが、指標の達成の度合いから高い評価を与えることができず評価について苦慮していることを踏まえて、長期的に見たときに基本計画が目指している成果指標につながるように、個別具体的な小目標を設定するという話だったと思います。まず、確認しておいた方が良いのは指標4で、名称に問題があると感じていて、「図書館ホームページの1日平均アクセス数」と記載されていますが、正確には「図書館ホームページトップページへの1日平均アクセス件数」になってしまっています。しかし現実には、わざわざトップページにアクセスする方は、そこまで多くないかと思います。実際に蔵書検索等でアクセスしていれば、それは図書館のホームページを利用しているとしても良いのではないのでしょうか。ここに関しては、指標が時代の変化に合ったものさしになっていないかと思います。指標5も同様で、「この本はどこの棚にあるか」といった質問は、利用者が蔵書検索を行えば解決する質問です。わざわざ「この本はどの棚にありますか」と今の時代図書館職員に対してあまり質問しないと思いますし、利用者に対する情報支援には合わないと思います。ですので、現状では簡易なレファレンスを含めた総件数を指標にしているようですが、ものさしを時代の変化に合わせて再定義すれば、件数だけだと目標に達していないような印象を受けるが、必ずしもそうではないのではないのでしょうか。実際は高度なレファレンスの件数を向上させているということで評価につながるのではないのでしょうか。

一方で、指標1の市民登録率は、今回あげていただいている新しい取り組みが必要だと思います。基本計画はまだ有効ですので、今すぐに達成目標自体を変更することはできませんが、今の状況にあったものさしに変

えて、それをもっともう少し総合的な評価をしていただきたいということで、今回このような形で事務局から提案がございました。この説明に関しまして、委員の皆様から御質問等ございますか。

(渥美委員)

指標5のレファレンスと、指標4のホームページの件ですが、今はホームページのアクセス数よりも SNS のアクセス数を見る時代ですし、スレッズという新しい SNS が出てきて、その拡散力が大きいと感じており、その次がインスタグラムだと思います。ホームページのアクセス数が図書館の活動を判断する材料となっていること自体が古いのではないのでしょうか。具体的な取組の例に記載のある、図書館 SNS や Web メディアや動画による情報発信を充実させていくということは大事だと思います。基本的には問題意識は正しいと思います。

(小山副会長)

1つ目は、今渥美委員がおっしゃった指標4についてです。SNS の話はまさにおっしゃる通りだと思います。今回の目標の中で、どのように実現するのかはともかく、期待したいと思います。

2つ目は7ページ目で「主要ページのアクセス数向上」とありますが「主要ページ」とは何かを明らかにした上で、その達成を目指していただきたいと思います。私は資料検索のページは重要だと思うので、それが主要ページの1つであると考えます。

3つ目が指標1の市民登録率についてです。市民登録率は、市民が図書館を使っているという意味でも重要ですので、登録者数を増やすことは肝要であると考えます。図書館がどの層の登録を増やすか等の分析を加えられたのはとても良かったので評価したいと思います。その上で、若年層の新規登録者の割合が増えているのでそこにターゲットをおこうということですが、仮にそうしたときに私たちが知りたいのは、6ページ目にある、現在の登録者数に占める新規登録者の割合だけでなく、例えば「13歳から18歳は、相模原市には何人住んでいるのか」ということです。分母も踏まえた上での分析ができるように、私たちにも情報提供いただきたいですし、もちろん内部評価するときにはその点を踏まえながら進めていただけたらと思います。

(渥美委員)

指標7について、テーマ設定の仕方によって、参加人数は増える可能性があると思います。どのように募集するかというのはプロフェッショナルな視点から探していただきたいと思いますが、市民が参加する場を設けていただき、そこでどのような講座を求めているか聞いてみるのも良いと思います。連携・協働では少し固いかもかもしれません。市民が参加するという場を設けていただくと、それによってどういう話題がほしいか聞けると思うので、そういう場所を提供していただきたいということです。

(佐藤(純)委員) 指標7について、公民館の狙いも図書館と同じです。公民館で言われていることは、「集い、学び、結ぶ」ですが、図書館にもそういう面があると私は思います。ですので、もう少し地域の住民の実態や意識を分析して欲しいです。かつては地域の活動や公民館の生涯学習に60代、70代の方がたくさん参加していましたが、今は参加者が高齢化してきており、このままでは活動が立ち行かなくなってしまうのではと危惧しております。一方で、いま相模原市は、防犯や防災、外国籍の方の増加による多文化共生など、地域に様々な課題を抱えています。自治会の加入率も低下しています。ホームページについての指標がありました。公民館のホームページも図書館と同じで、どれだけの方に見ていただいているのかと思います。この地域では何が課題になっているのか、生涯学習の機会を提供するには、地域の実態をきちんと分析する必要があると感じました。

(小山副会長) 佐藤委員の意見に賛同します。例えば、地域における生涯学習のニーズはおそらく公民館の方がよく知っていらっしゃる。だからこそ公民館と協働して催し物を行うとか、地域防災に関してであれば防災担当部署と協働してイベントを行う。そのイベントの会場は図書館にこだわらず、例えば公民館に会場を移す等が考えられます。その時に、図書館がパワーを発揮できる部分と、公民館が発揮できる部分と、それぞれがいろいろなものを持ち寄って、1足す1ではなく、掛け算で2にも3にも4にもしていただけるような、そういった活動に取り組む。まずは最初のきっかけとして、それをすることによって、図書館も公民館もいろいろなところで市民の皆さんにメリットを与えられて、かつ、図書館や公民館にとっても参加者数や実施回数を増やしていくことができる。市民の方々にきちんと見える形で、ないしは説明責任を果たせる形で実現できるという意味では、こういう連携や協働は、渥美委員は少しハードルが高いのではとおっしゃっていましたがけれども、少し視点を変えれば、それぞれにメリットがあるような、そういう取り組み、小さな目標だと私は受けとめましたので、ぜひ実現していただけたらと思います。

(渡辺(裕)委員) 生涯学習や、地域活動について感じているところがあります。図書館と公民館と、地域の子供会、消防団等は地域の文化を支えている大切な機関であると思います。組織を縦割りにするのではなく手をつないでいけるような形にしていけば、図書館がもっと地域に溶けこんでいけますし、共働き世帯や普段仕事に忙しい方でも図書館に来館してくれるチャンスが広がると思います。公民館で幅広い年齢層の方が音楽の練習をしているところを見たことがあり、民間でなくお金をかけなくても学習ができることに驚きました。音楽だけでなくとも色々なことを学びたいという意欲を持つ

ている市民の方は多いと思います。生涯学習の機会を図書館でも提供しているのを積極的に周知してほしいと思います。

(大谷会長)

中央図書館機能で市立図書館は今後大きな複合施設になり、そうなる連携や協働が日常的に必須になると思います。指標はさることながら、今後の意識の持ち方として、図書館だけで頑張ることの限界はあるかと思います。相模原市は、公民館活動が盛んなので、連携や協働をもっと考えなければならぬと思います。指標に関して具体的に今ここで決めるのは難しいと思いますが、基本的には皆様は、この方向で、少なくともやってみても良いのではと受け止めていると私は認識していますので、協議会の今日の結論としてはこの方向で進めるということ承認してよろしいでしょうか。おそらく次年度の評価で評価を行う際には、具体的な指標の話はもう1回議題に出ると思います。基本的にはこの方向で、ご指摘があった点に関しては少し精査をしていただきますが、基本的にはこの方向で指標を用意していただいて、それで次年度の評価に臨み、実際の評価の段階になったら確定したものをお見せいただくという流れで進めたいと思いますがいかがでしょうか。

(佐藤(純)委員)

地域のまちづくりで一番大事なものは、地域に住んでいる人たちが自分たちの地域の歴史や文化をしっかりと知ることだと思います。相模原にはどんな歴史、文化、伝統があるのか。例えば、図書館は、市の歴史や地域に関する資料の収集を行っていますが、文化財に関する部署に知識や資料を提供しているのでしょうか。図書館の中で市民の方が、自分たちが住んでいる地域のことを調べられる郷土資料コーナーがあるが乏しいと感じる。相模原の歴史や文化を市民に知っていただくことが大切だと思いますし、過去の歴史を知らずにまちづくりの活性化は困難だと思います。防犯や防災も過去の歴史の土台に乗っていると思います。

(2) 司書職人材育成方針(案)について

事務局から資料に基づき説明し、質疑応答を行った。

(大谷会長)

私や、小山副会長は図書館情報学が専門領域の研究者ですし、司書の皆様や我々が教えている図書館情報学を履修している学生は、そもそも司書職とは何かを了解されていると思います。ですが、ここは協議会ですので、前提としてもう少し司書職の必要性や意義について、専門知識がない方でも分かるような説明が前段としてないと、聞いていてもよく理解できないかと思います。実際、今まで図書館がない自治体に新しく図書館をつくる際には、準備室のような部署に司書職を配置して何年もかけて開館までの準備を行います。そのくらい、それなりに分かっている人がいないと、全

くないところから図書館をつくることはハードルが高いです。相模原市の規模になると、行政機関としての組織運営等も必要で、当然そうなる、司書職と一般の事務職が連携・協働しなければ回していけないという話かと思えます。ただ、前段の説明がない中で、賛成も反対もないかと思えます。この計画を作成したそもそもの経緯について図書館側にお尋ねします。従来から司書職の方は採用されていたということですが、資料を見ると、前職経験がある30代から50代までの方が多いいいことは、今まではいわゆる即戦力として採用してきたということでしょうか。医師や弁護士だと一般的に修行のような時間があるかと思えますが、本市の場合、あまり採用してから育成するという形ではなかったという理解でよろしいでしょうか。

(事務局)

これまでは、専門的に学んだ知識を持った者や資格取得者を採用することで、「必要な知識技術が埋まる」という状況でした。これからは、基本的なこと以上に、目的を持って働くことで図書館の質が上がっていくというような時代に入ったと思えます。やみくもに教育するのではなく、計画的に育成をしていこうというものです。このことは第2次図書館基本計画に記載されていて、計画的にここまでやってきています。それをいよいよ具体的に、こういった方法で、こういった職員を育成していくんだというところを、少し入口の部分でお示ししていこうかという状況です。

(大谷会長)

今までも司書職は採用されていたが、どちらかというと比較的即戦力の方を確保して、その知識・技能を相模原市の図書館行政や図書館サービスに充てていこうとしていたが、今後はきちんと育成し長期的に能力を高めて、図書館の質を上げていきたいというのが動機であるということですね。これに関しては、私もその当時の文部科学省の会議の委員でしたが、現在の司書資格の認識は、入口という理解です。資格さえ取れば、プロフェッショナルということではありません。図書館という現場で勤めた上でさらに自己研鑽を努めて、初めてプロと言えます。図書館で司書資格を持って図書館に勤務することになった方は自己研鑽を積み、自己開発して欲しいと思えます。それに加えて、今回相模原市ではさらに「図書館組織として、どう人材を育てるか」を出したのが、そもそもの話という理解でよろしいですか。

(佐藤(純)委員)

これは、公民館における社会教育主事も同様です。大学で専門性を身に着け資格を取得すれば、地域のまちづくりや地域の生涯学習の学びについて即実践できるかという、そうではありません。自分で企画・立案し、地域の中に飛び込むという実務経験を積むことで、地域の方が何を求めているのか分かるようになると思えます。図書館司書も社会教育主事も、専

門知識だけでなく柔軟性も必要です。

(大谷会長) もともと従来日本では、職員を長期的に、職場で実務を積み重ねながら育成するというやり方が主流だったと思います。ただ、世の中は高度化されているので、高度な知識は最初から持っていて欲しい、ただし、それで解決するわけではないので実践を積みつつ、でも高度の知識・技能も磨いていかないと錆びついてしまうので、そこはかなり組織立って意識的にやっていく必要があると思います。実務も大事ですが、一方でどう体系的にきちんと理論的或いは論理的に組み立てていくかも大事ですので、だからこそこういう話が出ているのだと思います。正直、我々委員も今説明を聞いただけで賛成も反対も判断がつかないと思いますので、もう1回話し合う場が必要ではないかと思います。何とかできるだけ早く形にしようということで、8ページ目の今後のスケジュール案が資料2-1のとおり記載されていると思うのですが、もう少し時間をかけて我々委員も内容を理解したうえで出さないと、市の財政や人事部門に対して弱いアピールに思えないと思います。そもそもの動機と必要性に関してはさきほど私の方で補足させていただいたものがそうだという風に受け止めて、その先については継続ということで、スケジュールに関してはもう少し時間をいただきたいということによろしいですか。

(事務局) 図書館の方としても、今、会長がおっしゃったとおり、少し内容が唐突なこともありましたし、深く議論していくことは短時間では少し困難だと感じております。皆様すでに資料をご覧くださいますので、時間をかけてでも、何か感じたところがあれば少しずつでも、教えていただければいいと思いますので、もう少し時間をかけるという考えはいいと思います。

(大谷会長) もっとこういう人材がこの図書館に必要だ等の御意見ございますでしょうか。私は主にどちらかという今後のことを考えると、まず、司書職が図書館にとって、どう必要な人材であるのかという説明があるのではないかとということと、さらに、それが相模原市にとってどのようなメリットになるのかについてももう少し説明があった方が良いというのが、現時点での私の意見です。副会長から補足ありますか。

(小山副会長) 1つよろしいでしょうか。この後、スケジュールをどういう形で私たちにお示しいただけるのでしょうか。メールでも通知でも良いです。

(事務局) メール等でご連絡させていただきます。

(大谷会長) それでは、この議題に関しては引き続きということによろしいでしょうか。

(佐藤(純)委員) スケジュールとしては、3月策定ということは2月に庁内で協議して教育委員会の定例会にかけるのでしょうか。

(事務局) 庁内の会議にはいずれ通すのですが、まだ2月に行うということは決定ではございません。後ろにすることは可能です。

(佐藤(純)委員) 4月から新たな取り組みを実施するのはスケジュールが厳しいと思います。例えば教育委員が聞いて理解できるような、先ほど大谷会長がおっしゃっていたように専門知識がない方でも分かるような説明が必要だと思しますので、もう少し時間をかけて議論したほうが良いと思います。

(大谷会長) 協議会の了承等が必要であるということであれば、会議の回数等に関してはご検討いただいたほうが良いかと思えます。議題に関しては以上ですので、事務局の方でその他の進行をお願いいたします。

3 その他

(事務局) 資料はありませんが、お時間をいただきまして、第2回の協議会の中で、渥美委員から協議会の運営に関して御意見をいただいた件についてお話をさせていただければと思います。渥美委員からは10点の御提案をいただきまして、協議会の場で皆様にも共有させていただきました。そのことに関連して、第2回の協議会の中で、大谷会長からも協議会の場ということではなく、また渥美委員の御意見だけではなく、皆様の御意見も伺いたいということでした。可能であれば、いきなり協議会の議題として協議するという形ではなくもう少しじっくりばらんにお話をさせていただく機会が持てればということで宿題をいただいていたところです。

その件に関して、どうしても審議会という形式ですと市としての決まりがありますので、自由にとというのはなかなか難しいところもございませぬ。そこで、協議会の前後、例えば日中に開催するときの前の時間や、後ろの時間をいただいて、懇談会のような形で話し合いができればということで、御提案をさせていただきたいと思えます。

もちろんお時間の都合があるかと思えますので、御参加は任意になると考えておりますが、協議会の前後にこちらで場を設定させていただいて、意見交換を行うことでいかがかということで、今回協議会の方に提案をさせていただきたいと思えます。

(大谷会長) 実は我々の大学でも、教授会の前後等に、意見交換する場を設けて、そこでは決めずに意見を交換した上で、最終的に決めるのは正式な教授会で行うということをしております。それをイメージして、この協議会の運営のあり方とか、本当はこういう形にしたいという趣旨であれば例えば「条例を変えずに工夫次第でやればできるのではないか」等、皆様で自由に少し議論する。ただ、正式に決定するのは当然協議会で「運営のあり方はこうした方がいいと協議会は思っています」という記録は作るべきだと思えます。あくまで任意での参加であり、そこでは結論は出すことをせず「な

るべくこの方向で」、「次回の協議会では正式にこの内容で進められるか議論しましょう」というぐらいの合意を作る形で意見交換してはどうでしょうかと思っておりますが、いかがでしょうか。運営のあり方そのものを協議会で正式に議論していきなり議決というのは、少しハードルが高いのではという気持ちがありましたのでこのような相談をさせていただいた次第です。

(渥美委員) 皆様のご都合があると思いますが、ぜひ柔軟に対応していただいて、ざっくばらんに、図書館の発展のためのことを話し合える時間は作れればと思っております。

(大谷会長) それぞれの仕事や本業のご都合があるかと思しますので任意とさせていただきます。次回はそういうことも行うという含みで、事務局で調整をお願いいたします。

(事務局) 次回の協議会がまだ日程等調整できておりませんので、今の懇親会の話と、あとは先ほどの人材育成のスケジュール感などもあわせて、皆様にまたお知らせしたいと思しますので、どうぞよろしく願いいたします。

(渡辺(裕)委員) 議題2(2)の司書職人材育成方針について、いくつかの疑問事項がありまして、質問させていただいて、回答いただくことも可能ですか。

(事務局) もちろん単純な質問でも結構ですし、内容についての御意見でも結構です。お寄せいただくと大変ありがたいです。長時間にわたりまして、ご協議いただきましてありがとうございました。以上で本日の日程は終了いたしましたので、令和7年度第4回図書館協議会を終了いたします。

以上

相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	役 職	氏 名	所 属 等	出欠席
1	会 長	大谷 康晴	青山学院大学教授	出 席
2	副 会 長	小山 憲司	中央大学教授	出 席
3	委 員	佐藤 玲子	相模原市立小学校長会	出 席
4	〃	渡部 賢一	相模原市立中学校長会	欠 席
5	〃	佐藤 純	相模原市公民館連絡協議会	出 席
6	〃	渡辺 晃子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会	出 席
7	〃	松浦 浩樹	和泉短期大学教授	欠 席
8	〃	渥美 聡一郎	公募	出 席
9	〃	渡辺 裕子	公募	出 席